

地域イベントにおける洪水被害の歴史等を踏まえた水防災の意識向上の取組

○平成28年7月27日の若宮地域自主防災組織の若宮地区説明会を受けて、年2回春と秋に行っている新町駅前どか市というイベントで若宮地域自主防災組織の作成した浸水イメージ等をまとめたDVDを放映し、若宮地域自主防災組織副会長による概要説明を行うとともに、大洲河川国道事務所も併設箇所に過去の洪水の写真などパネルを掲示して説明を行い訪れた人達に防災意識を持つよう住民に喚起を促した。

○この地区周辺には昭和18年、20年の洪水を体験した人が多くおり、今回のイベントにも参加されていた。昭和18年に被害に遭い掲載写真に写っている本人が、その時の状況を参加者に話したりして防災意識の向上が図られた。

日時場所：平成28年10月16日（10：00～15：00）、新町商店街

主催者：新町駅前商店会 どか市実行委員会

参加者：若宮地域自主防災組織、地域住民（約300名）、大洲河川国道事務所

イベントでの反応

- ・S18年の写真を見てとても怖かったことを思い出した。長い間市内中心部が浸水することはなかったが、災害について若い人たちにも伝えておきたい。
- ・平成7年洪水では会社の駐車場に置いていた自動車が浸水して廃車になった。20年経っているが自分が経験した事は覚えているので子供たちに話しておきたい。
- ・若宮地区自主防災組織が作成したDVDを見て数字で言われても分からないが映像で見たらわかりやすかった。
- ・新しい基準になって浸水する水位が深くなって避難の場所や方法が変わってくるとい事だが、要は普段からひとり、ひとりが危機意識をもって何かあったら自分で行動出来る用にしておけばいい。

